

稚内高校

令和 8 年度シラバス

普通科 1 年

目次

1. 現代の国語	7. 化学基礎	12. 書道 I
2. 言語文化	8. 体育	13. 英語コミュニケーション I
3. 地理総合	9. 保健	14. 論理・表現 I
4. 歴史総合	10. 音楽 I	15. 情報 I
5. 数学 I	11. 美術 I	16. 稚内学
6. 数学 A		

教 科	国語	科目	現代の国語	年次	1	単位数	2	必修
使用教科書	現代の国語（大修館）							
使用副教材	漢字とことば 常用漢字アルファ 五訂版（桐原書店） 評論速読トレーニング700（数研出版）							
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。							
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度	
評価の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。			「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。	
評価の算出	上記の趣旨をふまえ、授業内を行う定期考査や課題確認テストを基に評価を算出する。			上記の趣旨をふまえ、定期考査やレポート、発表を基に評価を算出する。			上記の趣旨をふまえ、レポートや発表、ミニテストを基に評価を算出する。	
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容	①	②	③		
前 期	4	8	オリエンテーション／伝える・伝え合う／「水の東西」	○	◎	○	小テスト レポート	
	5	6	「『動』への変化」	◎	◎	○	レポート	
	6	7	「インターネット時代の音楽産業」	◎	◎	○	レポート	
	4		的確に伝える	○	◎	○		
	7	7	意見を示す／「自然と人間の関係をとおして考える」	○	◎	◎	レポート	
	8	3	魅力的に伝える 前期期末考査	○	◎	◎	発表 定期考査	
9	5	「空気を読む」	○	◎	◎	レポート		
後 期	10	5	「『個人』から『分人』へ」	◎	◎	○	レポート	
	11	8	「言葉についての新しい認識」	○	◎	◎	レポート	
	12	7	「白」	○	◎	○	レポート	
	1							
	2	4	主張を吟味する 後期期末考査	○	◎	○	発表 定期考査	
	3	3	考えを発信する・結論を出すために話し合う 考えを発信する・レポートを書く	○	◎	◎		
合計	70							
学 習 方 法 ・ そ の 他								
○書けない・読めない・わからない漢字や語句を見つけたら、必ず調べましょう。漢字や語句の知識は、文章を話す・書く・読むにあたって重要な力です。 ○基本的に、どの単元においても「自分の考え」などの文章を作成し、それを他者に伝える活動を行います。ここで培う力は、社会で生きるものとなります。 ○定期的に漢字や語句の小テストを実施します。日進月歩です。								

教科	科目	言語文化	年次	1	単位数	2	必修		
使用教科書		言語文化(大修館)							
使用副教材		読んで見て覚える重要古文単語315 三訂版(桐原書店) 基礎から学ぶ解析古典文法 三訂版・演習ノート(桐原書店) 基礎から解釈へ 漢文必携 五訂版・チェックノート(桐原書店)							
科目の目標		国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。							
評価の観点		① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
評価の算出		上記の趣旨を踏まえ、授業内における小テストや定期考査、休業明け課題確認テストを基に評価を算出する。		上記の趣旨を踏まえ、定期考査を基に評価を算出する。		上記の趣旨を踏まえ、レポートや発表を基に評価を算出する。			
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	1	・オリエンテーション			○	○	◎	授業での様子
		7	・古文入門 宇治拾遺物語「田舎の児～」 「児のそら寝」			◎	○	○	小テスト
	5	6	・徒然草			○	◎	○	小テスト、提出物
		8	・「羅生門」			○	◎	○	小テスト、提出物
	7	8	・伊勢物語「芥川」			◎	○	◎	小テスト、提出物
		8	前期期末考査						定期考査
後 期	10	6	・「青が消える(Losing Blue)」			○	◎	○	小テスト、提出物
		11	・漢文入門			◎	○	○	小テスト、提出物
	12	5	・漢文「故事」			◎	○	◎	小テスト、提出物
		6	「セメント樽の中の手紙」			○	◎	◎	小テスト、提出物
	1	4	・短歌・俳句			○	○	◎	小テスト、提出物
		2	後期期末考査			○	◎	○	定期考査
	3	4	・1年間の復習						
	合計		70						
	学 習 方 法 ・ そ の 他								
【現代文】 ・読めない漢字や意味のわからない語句を見つけたら、調べましょう。語彙力が向上します。電子辞書を持っている人は、必ず持参すること。 ・自分の考えを書き、交流する活動を行います。思考力や表現力が向上するので、真剣に取り組みましょう。 【古典(古文・漢文)】 ・教材に入る前は、ノートに本文を記入したり語句の意味を調べるなど、必ず予習しましょう。(やり方などは授業で説明します) ・古文ができるようになる基本は「単語力」です。【読んで見て覚える重要古文単語315】を3年間使用し、テストも行うので、しっかり覚えましょう。 【その他】 ・定期的に古文単語や漢字テストを実施します。3年後には確実に定着させられるように、今からコツコツと取り組みましょう。 ・授業は、自分の考えや意見を表現する練習の場としてください。必ず、将来の進学や就職などで生きてきます。									

教 科	地理歴史	科目	地理総合	学年	1	単位数	2	必修	
使用教科書	地理総合（東京書籍） 新詳高等地図（帝国書院）								
使用副教材	地理総合ワークシート（東京書籍）								
科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、社会的事象の地理的な見方・考え方を培い、グローバル化する国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	地図や地理情報システムなどを用い、調査や諸資料から地域的・地球的課題への取り組みを理解することができるか。			地理に関わる事象の意味や背景を位置や分布・自然環境に着目し、多角的・多面的に考察し課題解決に向けて構想したり説明できるか。			地理に関わる諸事象についてよりよい社会の実現ができるよう課題を主体的に追求・解決しようとする態度を養い、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さを深めることができたか。		
評価の算出	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・提出物 ・復習テスト 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション						
		5	第1編1章 私たちが暮らす世界			◎	◎	○	
	5	6	第1編2章 地図や地理情報システムの役割			◎	◎	○	
	6	7	第1編3章 資料から読み取る現代社会			◎	◎	○	
	1		前期中間考査						
	7	4	第2編1章1節 生活文化の多様性と国際理解			◎	○	○	
	8	4	第2編1章2節 生活文化と自然環境①			◎	○	○	
後 期	9	7	第2編1章3節 生活文化と自然環境② 4節 生活文化と産業			◎	○	○	
	1		前期期末考査						
	10	8	第2編1章4節 生活文化と産業 GLOBAL REPORT			◎	○	○	
	11	7	第2編2章1節 地球環境問題 2節 資源・エネルギー問題			◎	◎	○	
			3節 人口問題 4節 食料問題			◎	◎	○	
	1		後期中間考査						
	12	6	5節 居住・都市問題 6節 民族問題			◎	◎	○	
			7節 持続可能な社会の実現をめざして GLOBAL REPORT			◎	◎	○	
	1	4	第3編1章1節 日本の自然環境の特徴			◎	◎	○	
	2	3	第3編2節 さまざまな自然災害と防災			◎	◎	○	
1		後期期末考査							
3	4	第3編2章 生活圏の調査と地域の展望			◎	○	○		
合計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
【授業】 *準備するもの：教科書・タブレット・地図帳・ファイル・色ペン（2色以上）を必ず持参してください。 *「教科書読み」「問題の出し合い」などペアワークを多く取り入れます。 *必要に応じてメモをしたり、教科書にマーカーを引いたりしてください。 *図表やグラフがたくさん出てきます。何を表している図表・グラフなのかしっかりと確認するようにしてください。									
【定期考査】 *定期考査の成績不振（赤点）は30点未満を指し、30点以上であれば、成績不振の対象外となります。 *考査内容は、教科書と同じ内容の写真や図表・グラフを中心に出題します。授業のメモ、書き込みが重要になってきます。									

教 科	地理歴史 科目		歴史総合	学年	1	単位数	2	必修	
使用教科書	明解 歴史総合（帝国書院）								
使用副教材	明解 歴史総合ノート（帝国書院）								
科目の目標	近現代を中心とする歴史の変化を、諸資料に基づき、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、社会的事象の歴史的な見方・考え方を培い、グローバル化する国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	・近現代の歴史の変化を、日本とその背景にある世界との相互的な関係に気づき、理解できたか。 ・近現代の歴史の変化に関わる疑問の解決に向けて、歴史的資料を適切かつ効果的に利用できたか。			・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味、原因、意義を、歴史的な概念に基づき考察できたか。 ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味、原因、意義を、自らの言葉で表現できたか。			・自らの経験や思考に基づき、近現代の歴史の変化に関わる疑問を立てることができたか。		
評価の算出	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・定期考査 ・課題の取り組み 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・提出物 ・授業の取り組み 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	1	1部 歴史の扉 1章 歴史と私たち 2章 歴史の特質と資料			○	◎	○	課題の取り組み
			2部 近代化と私たち						
	5	1	1章 江戸時代の日本と結びつく世界			○	○	◎	授業の取り組み
		2	1章 江戸時代の日本と結びつく世界 1/2			◎	○	○	定期考査
		2	1章 江戸時代の日本と結びつく世界 3/4			◎	○	○	定期考査
	6	5	2章 欧米諸国における近代化 1/2/3/4/5			◎	○	○	定期考査
		1	前期中間考査			◎	◎	○	
		4	3章 近代化の進展と国民国家形成 1/2/3/4			◎	○	○	定期考査
	7	2	4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 1/2			◎	○	○	定期考査
		3	4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 3/4/5			◎	○	○	定期考査
		2	5章 近代化が進む日本と東アジア 1/2			◎	○	○	定期考査
	8	3	5章 近代化が進む日本と東アジア 3/4/5			◎	○	○	定期考査
		9	1 前期期末考査			◎	◎	○	
		1	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち						
後 期	10	6	2章 国際協調と大衆社会の広がり 2/3/4/5/6			◎	○	○	定期考査
		2	3章 日本の行方と第二次世界大戦 1			◎	○	○	定期考査
	11	7	3章 日本の行方と第二次世界大戦 2/3/4/5/6/7			◎	○	○	定期考査
		1	後期中間考査			◎	◎	○	
	12	5	4章 再出発する世界と日本 1/2/3/4			◎	○	○	定期考査
		1	4部 グローバル化と私たち						
	1	1	序章 グローバル化への問い			○	○	◎	授業の取り組み
		4	1章 冷戦で揺れる世界と日本 1/2/3/4			◎	○	○	定期考査
		2	2章 多極化する世界 1/2/3/4			◎	○	○	定期考査
	3	1	後期期末考査			◎	◎	○	
5		3章 グローバル化の中の世界と日本 1/2/3/4/5			○	◎	○	課題の取り組み	
合計	70								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
<持ち物> ・教科書・授業プリント（授業プリントをまとめるためのファイルを準備してください） ・筆記用具（なるべくカラフルに） ・タブレット <その他> ・次の3つの疑問文を大切にしてください。授業者も常に意識しながら説明をしていきます。 ①「どういうことか・何か」 ②「なぜか」 ③「どうなったか」									

教 科		数学		科目	数学Ⅰ（普通科）	年次	1	単位数	3	必修		
使用教科書		改訂版 高等学校 数学Ⅰ（数研出版）										
使用副教材		改訂版 4プロセス 数学Ⅰ＋A（数研出版）										
科目の目標		授業を通して知識や数学的な考え方を身につけ、問題演習を通して定着し、自分で問題を解くことができる。										
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。				
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、数学マラソンや定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。				
年 間 の 学 習 計 画								評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容					①	②		③	
前 期	4	9	第1章 数と式	多項式の加法と減法／多項式の乗法／因数分解					◎	○	◎	小テスト、提出物
				実数／根号を含む式の計算					◎	○	◎	小テスト、提出物
	5	15		不等式の性質／1次不等式					○	◎	◎	小テスト、提出物
				絶対値を含む方程式・不等式					○	◎	◎	小テスト、提出物
	6	20	前期中間考査						◎	◎	◎	定期考査
			第3章 2次関数	関数とグラフ／2次関数のグラフ					◎	○	◎	小テスト、提出物
	7	10		2次関数の最大・最小/2次関数の決定					○	◎	◎	小テスト、提出物
後 期				2次方程式					○	◎	◎	小テスト、提出物
	8	10	夏休み明け考査						◎	◎	◎	単元テスト
				2次関数のグラフとx軸の位置関係／2次不等式					◎	○	◎	小テスト、提出物
	9	1	前期期末考査						◎	◎	◎	定期考査
後 期	10											
	11											
	12	10	第2章 集合と命題	集合／命題と条件／命題と証明					◎	○	◎	小テスト、提出物
			第4章 図形と計量	三角比／三角比の相互関係／三角比の拡張					◎	○	◎	小テスト、提出物
				正弦定理／余弦定理／正弦定理と余弦定理の応用					○	◎	◎	小テスト、提出物
	1	10	冬休み明け考査						◎	◎	◎	単元テスト
				三角形の面積／空間図形への応用					○	◎	◎	小テスト、提出物
	2	10	後期期末考査						◎	◎	◎	定期考査
合 計	3	10	第5章 データの分析	データの整理／データの代表値					◎	○	◎	小テスト、提出物
				データの散らばりと四分位数／分散と標準偏差					◎	○	◎	小テスト、提出物
				2つの変量の間の関係／仮説検定の考え方					○	◎	◎	小テスト、提出物
学 習 方 法 ・ そ の 他												
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物として週末課題を課します。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 週末課題をもとに小テスト（数学マラソン）を作成します。小テストに向け勉強してください。 ○定期考査、単元テスト 定期考査も単元テストも普段の週末課題の勉強が重要です。日頃からこつこつ取り組みましょう。												

教 科		数学	科目	数学A（普通科）	年次	1	単位数	2	必修	
使用教科書		改訂版 高等学校 数学A（数研出版）								
使用副教材		改訂版 4プロセス 数学Ⅰ＋A（数研出版）								
科目の目標		授業を通して知識や数学的な考え方を身につけ、問題演習を通して定着し、自分で問題を解くことができる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。		
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、数学マラソンや定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③	
前 期	4	19	第1章 場合の数と確率 集合の要素の個数／場合の数 順列／組合せ／事象と確率 確率の基本性質／独立な試行と確率 条件付き確率／期待値				◎	○	◎	小テスト、提出物 小テスト、提出物 小テスト、提出物 小テスト、提出物
	5						◎	○	◎	
	6						◎	○	◎	
	7						◎	○	◎	
	8						◎	◎	◎	
後 期	10	20	単元テスト 第2章 図形の性質 辺の比／外心・内心・重心 チェバの定理・メネラウスの定理 円に内接する四角形 円と直線／2つの円 直線と平面／空間図形と多面体 第3章 数学と人間の活動 約数と倍数／素数と素因数分解 後期中間考査 最大公約数・最小公倍数 整数の割り算／ユークリッドの互除法 1次不定方程式 記数法／座標の考え方 冬休み明け考査				◎	◎	◎	単元テスト 小テスト、提出物 小テスト、提出物 小テスト、提出物 小テスト、提出物 小テスト、提出物 小テスト、提出物 定期考査 小テスト、提出物 小テスト、提出物 小テスト、提出物 小テスト、提出物 単元テスト
	11	20					◎	○	◎	
							○	◎	◎	
							○	◎	◎	
							○	◎	◎	
							○	◎	◎	
	12	10					◎	○	◎	
							◎	◎	◎	
							○	◎	◎	
							○	◎	◎	
							◎	○	◎	
	1	1					◎	◎	◎	
	2	1					◎	◎	◎	
	3									
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物として週末課題を課します。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 週末課題をもとに小テスト（数学マラソン）を作成します。小テストに向け勉強してください。 ○定期考査、単元テスト 定期考査も単元テストも普段の週末課題の勉強が重要です。日頃からこつこつ取り組みましょう。										

教 科	理科	科目	化学基礎	年次	1	単位数	2	必修	
使用教科書	高等学校 化学基礎 改訂版（啓林館）								
使用副教材	三訂版 リードLight化学基礎（数研出版） 改訂版 フォトサイエンス化学図録（数研出版）								
科目の目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。			物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。			物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
評価の算出	定期考查 実験・観察			定期考查 実験レポート 振り返り			単元テスト 振り返り		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期			第1編 物質の構成と化学結合						
	4	6	第1章 物質の構成		[実験・観察]成分元素の検出	◎	◎	○	単元のまとめ・単元テスト・振り返り
	5	6	・純物質と混合物		・物質とその成分	○	◎	◎	実験レポート
			・物質の三態と熱運動						
	6	1	《前期中間考查》			◎	◎		定期考查
			第2章 物質の構成粒子			○	○	◎	単元のまとめ・単元テスト・振り返り
		7	・原子とその構造		・イオン				
			・周期表						
	7	4	第3章 粒子の結合			◎	◎	○	単元のまとめ・単元テスト・振り返り
	8	4	・イオン結合とイオン結晶		・共有結合と分子				
後 期			・配位結合		・分子間にはたらく力				
			・高分子化合物		・共有結合の結晶				
			・金属結合と金属結晶						
	9	1	《前期期末考查》			◎	◎		定期考查
			第2編 物質の変化						
		7	第1章 物質と化学反応式		[実験・観察]物質量を体感する	◎	◎	○	単元のまとめ・単元テスト・振り返り
			・原子量、分子量、式量		・物質量	○	◎	◎	実験レポート
	10	8	・溶液の濃度		・化学反応式と物質量				単元のまとめ・単元テスト・振り返り
	11	7	第2章 酸と塩基の反応		[実験・観察]中和滴定	◎	◎	◎	単元のまとめ・単元テスト・振り返り
			・酸と塩基		・水素イオン濃度とpH	○	◎	◎	実験レポート
計 合			《後期中間考查》			◎	◎		定期考查
	12	6	・中和滴定と塩		・中和滴定				
	1	4	第3章 酸化還元反応		[実験・観察]電池	◎	○	◎	単元のまとめ・単元テスト・振り返り
	2	3	・酸化と還元		・酸化剤と還元剤	○	◎	◎	実験レポート
			・金属の酸化還元反応		・酸化還元反応の利用				
			・電池、電気分解						
		1	《後期期末考查》			◎	◎		定期考查
	3	4	振り返りとまとめ			○	○	○	授業参加
	合計	70							
	学 習 方 法 ・ そ の 他								
◎授業の受け方 ・毎回必ず教科書、副教材、タブレット端末を用意しましょう。また、忘れ物をした際には事前に申し出てください。 ・なぜ？どうして？という疑問を持ち、授業を通してその疑問を解決していきましょう。 ・わからないことはどんどん質問してください。 ◎家庭学習の仕方 －予習－ ・教科書を目を通してどんな内容を学ぶのかを把握するよう努めてください。 －復習－ ・教科書とプリントを熟読して内容を定着させましょう。 ・問題集を解いて、授業を理解できているか確認し、間違えたところを重点的に学び直しましょう。 わたしたちはたくさんの化学反応に囲まれて生活しています。その原理を理解し面白さに触れていきましょう！									

教 科		保健体育	科目	体育	学年	1	単位数	3	必修	
使用教科書		なし								
使用副教材		なし								
科目の目標		運動の合理的・計画的な実践を通して知識を深めるとともに技能を高め、楽しさを深く味わうことができるようにする。 自己の体力向上及び健康の保持増進を図り、公正、協力、責任、参画、安全などに対する意欲を高める。 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		運動の考え方や技の名称、行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解できているか。 運動の特性や魅力に応じた楽しさを味わい、技能や動きなどを高めることができたか。			グループやチーム、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できているか。また、取り組みから得た知識・技能をまとめることができているか。			運動に主体的に取り組み、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしているか。		
評価の算出		A：技能、知識共に達成度が高い。 B：概ね達成することができた。 C：技能、知識共に達成度が低い。			A：話し合い活動や発表の様子が積極的である。資料の完成度が高い。 B：概ね、達成する事ができた。 C：話し合い活動の様子や発表、資料の完成度の水準が低い。			A：積極的に活動に参加し、役割以上に取り組むことができた。 B：活動に参加し、自己の役割を果たすことができた。 C：活動への参加が消極的であり、他人任せである。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション【1】						○	小テスト 観察・新体力テスト換算表 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察・長距離走換算表 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 小テスト 小テスト 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート
		2	体育理論【2】：オリエンテーション・①スポーツの始まりと変遷				○	○	○	
		5	集団行動・新体力テスト【8】				○	○	○	
		6	体づくり運動：体ほぐし運動・縄跳び【6】				○	○	○	
		6	陸上競技：長距離走【5】				○	○	○	
		12	球技Ⅰ 男子：ソフトボール 女子：バスケットボール【12】				○	○	○	
		8	球技Ⅰ 男子：バスケットボール 女子：ソフトボール【12】				○	○	○	
		9	体育理論【2】：②文化としてのスポーツ				○	○	○	
		5	③オリンピックとパラリンピックの意義				○	○	○	
後 期	10	5	男子：柔道 女子：ダンス【5】				○	○	○	観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 小テスト 小テスト 小テスト
		11	カーリング【11】				○	○	○	
		3	救命講習会【3】				○		○	
		10	器械運動：マット運動【10】				○	○	○	
		12・1	球技Ⅱ 男子：卓球 女子：バドミントン【10】				○	○	○	
		2・3	球技Ⅱ 男子：バドミントン 女子：卓球【10】				○	○	○	
		3	体育理論【3】④スポーツが経済に及ぼす効果				○	○	○	
			⑤スポーツの高潔さとドーピング				○	○	○	
			⑥スポーツと環境				○	○	○	
合計	105									
学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方 ・指定ジャージ上下、ハーフパンツ、指定Tシャツは毎回準備して下さい。屋外で実施する場合は指定運動靴を使用して下さい。 ※屋外用指定運動靴には、使用前までに『名前』を必ず記入するようにお願いします。 ※屋外用指定運動靴は、指定のシューズケースに入れ、靴箱にしまうこと。 ・体育館やグラウンドへの移動を早めに済ませ、始業チャイムまでに整列して待機して下さい。 ・「わかった、できた」を目指した授業を展開します。運動技能の得意・不得意に関わらず意欲を持って臨んで下さい。 ◎提出物について ・『授業課題』をタブレットを活用して配布します。課題の指示を確認し、提出期限を守ることを大切にして下さい。 ・「思考・判断・表現」の評価対象になります。 ◎定期考査について ・実施しません。その代わりに授業内で運動技能テスト（スキルテスト）及び運動への理解度テスト（ペーパーテスト）を実施します。 ◎カーリングについて ・わからないみどりスポーツパークで2回実施します。詳しくはガイダンスを実施します。 ◎体育理論の実施時期は、単元の進行状況によって変更する場合があります。										

教 科	保健体育	科目	保健	学年	1	単位数	1	必修	
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店）								
使用副教材	現代高等保健体育ノート（大修館書店）								
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	個人及び社会生活における健康・安全についての知識を身に付け、その役割について理解できているか。			健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、筋道を立てて他者に表現できているか。			自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもち、実生活と結びつけて総合的に捉えようとする態度が身についているか。		
評価の算出	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・授業参加状況 ・提出物の内容 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	3	オリエンテーション(1) 健康の考え方と成り立ち(1) 私たちの健康のすがた(1)			○	○	○	・観察による評価
	5	3	生活習慣病の予防と回復(1) がんの原因と予防(1) がんの治療と回復(1)			○	○	○	・観察による評価
	6	4	運動と健康(2) 食事と健康(1) 休養・睡眠と健康(1)			○	○	○	・観察による評価
	7	2	喫煙と健康(1) 飲酒と健康(1)			○	○	○	・観察による評価
	8	2	薬物乱用と健康(1) 精神疾患の特徴(1)			○	○	○	・観察による評価
	9	4	精神疾患の予防(1) 前期期末考査・返却(2) 普通救命講習(1)			○	○	○	・定期考査 ・ノート提出
後 期	10	4	精神疾患からの回復(1) 現代の感染症(2) 感染症の予防(1)			○	○	○	・観察による評価
	11	4	性感染症・エイズとその予防(2) 健康に関する意思決定・行動選択(1) 健康に関する環境づくり(1)			○	○	○	・観察による評価
	12	3	事故の現状と発生要因(1) 安全な社会の形成(1) 交通における安全(1)			○	○	○	・観察による評価
	1	2	応急手当の意義とその基本(1) 日常的な応急手当(1)			○	○	○	・観察による評価
	2	3	心肺蘇生法(1) 後期期末考査・返却(2)			○	○	○	・定期考査 ・ノート提出
	3	1	高等学校保健についてのまとめ(1)			○	○	○	・観察による評価
合計	35								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方 ・教科書/ノート/タブレットを用意してください。 ・基本的知識を理解して課題解決するために、積極的に発言したり、グループ活動に参加することが大切です。 ・形態は一斉、グループ学習、ペアワーク、実験など様々です。ねらいを理解して取り組みましょう。 ◎定期考査について ・前期期末考査と後期期末考査で実施します。出題範囲が広がりますので計画的に家庭学習に取り組んで下さい。 ◎ノート提出について ・各期考査に合わせて、学習ノートの提出があります。コツコツ取り組みましょう。 ◎救命救急法実習について ・校内消防署の救急救命士のご指導のもと、心肺蘇生法とAEDの使い方を学びます。									

教科	科目	音楽Ⅰ	年次	1	単位数	2	選択
使用教科書	MOUSA1（教育芸術社）						
使用副教材	なし						
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、社会や生活の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる異質・能力を次の通り育成することを目指す。 ①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 ②自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 ③主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。						
評価の観点	① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱・器楽・創作などで表している。		音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことこのかかわりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。		音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		
評価の算出	授業中の様子や提出記録物の内容、実技、小テストの実施に加え、単元ごとに設定される目標をどれだけ達成しようとしているかという観点で評価を付けます。						
年 間 の 学 習 計 画					評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容	①	②	③	
前 期	4	1	オリエンテーション				授業での取り組みの様子、実技テストでの演奏、鑑賞の際の記入シートや小テストなどから成績を付けます。
		6	【歌唱】校歌、日本歌曲	◎	○	○	
	5	5	【楽典】音名・音符・拍子・強弱	◎	○	○	
	6	3	【鑑賞】音とイメージ	○	◎	○	
	7	4	【歌唱・鑑賞】英語の歌	◎	○	○	
	8	4	【歌唱】イタリア歌曲	◎	○	○	
	9	3	【歌唱】ドイツ歌曲	◎	○	○	
後 期	10	4	【音楽史】作曲家	○	◎	○	
	11	3	【鑑賞】オーケストラ	○	◎	○	
		3	【歌唱】季節の歌				
	12	3	【器楽】トーンチャイム	◎	○	○	
		10	【器楽】アルトリコーダー	◎	○	○	
	1	8	【歌唱】合唱	◎	○	○	
	2	3	【鑑賞】映画・ゲーム音楽	○	◎	○	
		10	【創作】音素材	○	◎	○	
3							
合計	70						
学 習 方 法 ・ そ の 他							
①授業でアルトリコーダーを使用する単元があります。中学校時に使用したもので構いませんので、手元にあるかを確認してください。ない場合は別途購入してもらいます。 ②音楽が得意でも苦手でも、真剣に取り組む姿勢が大切です。一生懸命に取り組んでください。							

教科 科		芸術 科目	美術Ⅰ	年次	1	単位数	2	選択		
使用教科書		美術1（光村図書出版）								
使用副教材		絵の具セット、スケッチブック等								
科目の目標		美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。								
評価の観点		① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価の趣旨		対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。		造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。		主体的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいるかどうか。また、美術を愛好する心情・感性、美術文化への親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度が養われているかなど。				
評価の算出		授業中の様子、各種提出物、完成作品より、まず単元毎に設定された目標をどの程度達成しているかで観点別評価（A～C）をつけます。その後、観点別評価を元に前期・後期毎に評価（1～5）をつけ、年度末に最終的な科目としての前後期統合した評定（1～5）を算出します。								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③	
前 期	4	1	オリエンテーション 1年間の学習や購入した画材について説明します。					○	各単元毎に目標が描かれた授業計画表を提示します。原則、その目標を評価の観点毎にどの程度達成できたかでA～Cをつけていきます。 【知識・技能】 主に提出された作品、練習課題から評価します。 【思考・判断・表現】 主に提出された作品、鑑賞文の他、制作途中のアイディアスケッチや振り返り・自己評価に書かれたことも参考に評価します。 【主体的に学習に取り組む態度】 主に普段の授業中の様子や、宿題・その他提出物の取り組み具合から評価します。提出物の締め切りを守れているかどうかともここに含まれます。	
	5	5	レタリング スケッチブックに貼る名前のレタリングを行います（GWに宿題有り）			○	○	○		
	5 6	4	人物クロッキー クロッキーを通して、観察力や対象を単純な線に置き換える能力を養います。			○	○	○		
	6	4	色の学習 色についての基礎知識を学び、狙った色の再現などを通して混色の原理などを学びます。			○	○	○		
	6 8	12	ポスターデザイン 各種コンクールに出品するポスターをレタリングや色の知識を用いてアクリル絵の具で描いていきます。			○	○	○		
	8 9	12	シルクスクリーン シルクスクリーンの原理や目的に沿ったデザインの考え方を制作をとおして学びます。			○	○	○		
	後 期	10 11	14	模刻 レプリカ制作を通し、造形や色彩の基礎を学びます。			○	○		○
		12 3	18	デッサン基礎 構図の取り方、明暗での立体感の表し方など、デッサンをするうえでの基礎を学びます。			○	○		○
		合計		70						
学 習 方 法 ・ そ の 他										
○学習方法 1つの課題は概ね10～14時間かけて制作します。その中に構想する時間が含まれます。計画的に制作しましょう。 作品はすべて提出してもらいます。欠席した際の補習は放課後に行います(自己申告制)。作品は単元の最終日までには必ず提出してください。 チャイムと同時に授業を始めます。机・イス、道具の準備は休み時間に済ませましょう。 ○その他 入学後、授業で使用する画材を指定店（北海ビジネス）で購入してもらいます。費用は8,000円程度かかります。 購入した画材は2年生以降でも選択教科によっては使用します。大切に使用しましょう。 配布したプリントを保管するクリアファイルは各自で用意をして下さい。										

教科 科		芸術	科目	書道Ⅰ	年次	1	単位数	2	選択	
使用教科書		書Ⅰ（光村図書）								
使用副教材		なし								
科目の目標		書道の幅広い活動を通して、書に対する見方・考え方を働かせ、生活や社会の文字や書、書の伝統と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけている。			書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。			感性を高め、書の伝統と文化と豊かに関わり、書の幅広い活動に主体的に取り組もうとしている。		
評価の算出		授業中の様子、各種提出物、完成作品より、まず単元毎に設定された目標をどの程度達成しているかで観点別評価（A～C）をつけます。その後、観点別評価を元に前期・後期毎に評価（1～5）をつけ、年度末に最終的な科目としての前後期統合した評定（1～5）を算出します。								
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③	
前 期	4	6	○書写から書道へ…姿勢と執筆法、用具・用材などについての学習				◎	○	◎	各単元毎に目標を提示します。原則、その目標を評価の観点毎にどの程度達成できたかでA～Cをつけていきます。 【知識・技能】 主に提出された作品により評価します。 【思考・判断・表現】 主に提出された作品、鑑賞文・振り返り・自己評価により評価します。 【主体的に学習に取り組む態度】 主に普段の授業中の様子や、その他提出物の取り組み具合から評価します。提出物の締め切りを守れているかどうかここに含まれます。
	5	6	○漢字の書…楷書の古典（孔子廟堂碑・九成宮醴泉銘） 全道学校書道展出品				◎	○	○	
	6	8	○漢字の書…楷書の古典（雁塔聖教序・顔氏家廟碑）				○	◎	○	
	7	4	○漢字の書…楷書の古典（牛橛造像記・鄭義下碑）				○	◎	○	
	8	4	○漢字の書…行書の古典（蘭亭序・風信帖） 書の甲子園出品				○	○	◎	
	9	8	○篆刻				◎	○	○	
後 期	10	8	○仮名の書…平仮名の単体・連綿の学習 ○仮名の書…仮名の美、散らし書き（高野切第三種）				◎	○	○	
	11	4	○漢字仮名交じりの書…①楷書と仮名の調和				◎	○	○	
		4	②行書と仮名の調和				○	○	◎	
	12	6	③名筆を生かした表現/紙面構成の工夫 全国学生書道展出品				○	○	◎	
	1	4	○書道鑑賞…文字の変遷や仮名の成立、書美の構成要素について学習				○	○	◎	
	2	4	○漢字仮名交じりの書…名作や詩歌を題材に草稿をもとに制作				○	◎	◎	
	3	4	○書の交流と鑑賞…作品集をつくる				○	○	◎	
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
【授業での約束事】 ・ 集中して書く時は集中して書く、他人と交流する時は精一杯やる。メリハリをつけて授業に臨みましょう。 ・ 授業開始のチャイムと同時に授業を始めるので、それまでに準備を完了させておくこと。 毛氈、墨池、文鎮、筆、用紙、教科書等、その他必要であればその都度指示を出します。 ・ 提出する全ての作品は年度末の単元で必要となります。提出する前に必ず写真を撮ってください。										

教 科		外国語	科目	英語コミュニケーションⅠ	年次	1	単位数	3	必修	
使用教科書		Heartening English CommunicationⅠ								
使用副教材		e-Learning（ICT教材）								
科目の目標		Can-Doリストに基づく。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めようとしている。 ・実際に英語を用いた言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけようとしている。			・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成しようとしている。 ・言語の使用場面や言語の働きの中からふさわしいものを取り上げ、有機的に組み合わせて活用しようとしている。			・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。		
評価の算出		・定期考査 ・授業内テスト			・定期考査 ・パフォーマンステスト			・パフォーマンステスト（態度） ・振り返り ・提出物		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③	
前 										

教 科	外国語	科目	論理・表現Ⅰ	年次	1	単位数	2	選択			
使用教科書	FACTBOOK English Logic and ExpressionⅠ										
使用副教材	FACTBOOK English Logic and ExpressionⅠ ワークブック essential										
科目の目標	・自分の気持ちや考え、情報を伝えるための基本的な技能や表現を身につけている。 ・日常的な話題について、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて情報や考えを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得ることができる。 ・日常的な話題について、事前に準備において多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。 ・日常的な話題について、事前に準備において多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。										
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価の趣旨	・実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識や表現を身につけようとしている。 ・目的や場面、状況などに応じた構成や展開を身につけようとしている。			・日常的な話題や社会的な問題について、得られた情報や考えを活用しながら話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現しようとしている。 ・日常的な問題や社会的な問題について、要点や意図を明確にしながら情報や自分自身の考えなどを英語で話したり書いたりしようとしている。			・主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・自分に足りない力、どのような学習が必要なのかを考え、意識して学んでいる。				
評価の算出	文法小テスト 考查 休み明け考查			パフォーマンステスト（内容） 英作文 考查			パフォーマンステスト（態度） 提出物、取り組み				
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容					①	②	③	
前 期	4	5	Unit0	会話を続ける	動詞/否定文と疑問文		○	◎	◎	提出物、取り組み	
					基本文型		○	◎	◎	提出物、取り組み	
	5	5	Part1	Unit1	スケジュールを決める、ブログを書く	時を表す表現	○	◎	○	提出物、取り組み	
		5		Unit2	人に関心を持たせる	完了形	◎	◎	○	提出物、取り組み	
	6	1		Thinking Logically1				◎	○	英作文	
		2		Making a Speech(パフォーマンステスト①)				◎	◎	パフォーマンステスト	
		1		■前期中間考查（筆記テスト）			◎	◎		考查	
		5	Part2	Unit3	商品の説明をする	助動詞	○	◎	○	提出物、取り組み	
	7	5		Unit4	道具の説明をする	受動態	○	◎	◎	提出物、取り組み	
		1		Thinking Logically2				◎	○	英作文	
		2		Q&A after the speech（パフォーマンステスト②）				◎	◎	パフォーマンステスト	
	8	1		□夏休み明け考查			◎			休み明け考查	
	5	Part3	Unit5	問題解決の結論を出す	不定詞	○	◎	○	提出物、取り組み		
9	1		■前期期末考查（筆記テスト）			◎	◎		考查		
後 期	9	5	Unit6	相談したりアドバイスを	する 動名詞		○	◎	○	提出物、取り組み	
	10	1		Thinking Logically3				◎	○	英作文	
		2		Making a Presentation(パフォーマンステスト③)				◎	◎	パフォーマンステスト	
	11	5	Part4	Unit7	感謝の気持ちを伝える	分詞	◎	◎	○	提出物、取り組み	
		1		■後期中間考查（筆記テスト）			◎	◎		定期考查	
	12	5		Unit8	比較しながら説明する	比較	○	◎	○	提出物、取り組み	
	1	1		□冬休み明け考查			◎			休み明け考查	
		1		Thinking Logically4				◎	○	英作文	
	2	5	Part5	Unit9	考えや希望を伝える	関係詞節とその他の節	◎	◎	○	提出物、取り組み	
		1		■後期期末考查（筆記テスト）			◎	◎		考查	
3	4		Unit10	要望に合った提案をする	仮定法	◎	◎	○	提出物、取り組み		
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
【授業について】 使用するものは、教科書、ワークブック、PC（タブレット）、筆記用具、A4バインダー（2つ穴でとめるもの）です。論理・表現Ⅰの授業では、英語で話したり書いたりして様々な表現を身につけていきます。授業や学習を通して、しっかりと自分の課題を見つけ、自分にはどのような力が必要か、どんな取り組みをすればその課題を解決できるかを自分で考えて、以前の自分と比べて何ができるようになったかを常に意識して学習に臨んでください。 【課題について】 家庭学習課題として、ワークブック、英作文、授業の振り返りシートの提出があります。PCで提出する課題もあるので、しっかりと先生の指示を聞き、ルールや期日を守って提出してください。 【定期テストについて】 正しく書くことも重要ですが、授業中で学習したことを頑張らせて使おうとしているかも評価するので、日頃から意識して授業に臨んでください。 【パフォーマンステストについて】 スピーチ、プレゼンテーションのパフォーマンステストを年に3回実施します。聞く態度も評価しますので、他の生徒の発表をメモをとるなどしてしっかり聞いてください。											

教 科	情報	科目	情報 I	年次	1	単位数	2	必修		
使用教科書	高校情報 I（実数出版）									
使用副教材	高校情報 I 新訂版 学習ノート（実数出版） パーフェクトガイド情報 Office2019対応（実数出版）									
科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 （２）様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 （３）情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。									
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨	情報と情報技術についての知識と技能、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについては、情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付ける。			情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力を養うとともに、問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。			情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い、これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会に主体的に参画する態度を養う。			
評価の算出	定期考査（年2回：前期末後期末のみ実施）や小テスト・実習課題等への取組状況、日々の授業に取り組む態度などを総合的に評価し、各評価観点ごとに「A」「B」「C」の3段階で評価を算出する。									
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③	
前 期	4	6	オリエンテーション 第1章 情報社会 ・ 情報と情報社会 ・ 法規による安全対策 ・ 知的財産権の概要と産業財産権 ・ 著作権			○	○	○	小テスト	
	5	6	第2章 情報デザイン ・ コミュニケーションとメディア ・ プレゼンテーション			○	○	○		
	6	8	第3章 デジタル ・ デジタル情報の特徴 ・ 演算の仕組み ・ 音の表現 ・ コンピュータの構成と動作 ・ データの圧縮と効率化			○	○	○	小テスト	
	7	4				○	○	○		
	8	4	第4章 ネットワーク ・ ネットワークとプロトコル ・ Webページの閲覧とメールの送受信 ・ 情報システム ・ 情報システムを支えるデータベース ・ データベースの仕組み ・ 安全のための情報技術			○	○	○	小テスト	
	9	8	第5章 問題解決 ・ データの収集と整理 ・ ソフトウェアを利用したデータの処理			○	○	○		
	前期期末考査						○	○		
	後 期	10	8	・ 統計量とデータの尺度 ・ 時系列分析と回帰分析 ・ モデル化とシミュレーション ・ 確定的モデルのシミュレーション ・ 確率的モデルのシミュレーション			○	○	○	実習課題
		11	8	第6章 プログラミング ・ アルゴリズムとプログラミング ・ 配列 ・ 探索のプログラム ・ 整列のプログラム ・ オブジェクト指向プログラミング			○	○	○	
12		6				○	○	○	実習課題 実習課題 実習課題	
1		4				○	○	○		
2		4				○	○	○		
3		4	後期期末考査 ・ プログラムの設計手法 ・ プログラムによる動的シミュレーション ・ 計測・制御とプログラミング			○	○	○		
合計	70					○	○	○	実習課題	
学 習 方 法 ・ そ の 他										
・ 普段の授業を大切にする。 ・ 週1回2時間連続の授業を基本とするため、欠席をしない。 ・ 情報処理教室を使用する際には、コンピュータや室内の物品の取り扱いに十分に気をつけること。 ・ 座学と実習を並行しながら授業を進めていく。										

教 科		総合	科目	稚内学	学年	1	単位数	1	必修	
使用教科書		なし								
使用副教材		稚内観光マイスター初級テキスト								
科目の目標		稚内市の地理的特徴や発展の歴史、文化的特徴等に関する基礎的内容を学習することにより、郷土に対する理解を深め、郷土に対する愛情と貢献意欲を高めることで、地域の担い手となる人材の育成を図る。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		稚内の歴史、風土、文化、産業に関する幅広い知識を得ることができる。また、地域の諸問題についての確に理解し、それを他者への確に説明することができる。			地域の歴史と現状を知ること、今後の稚内の在り方について積極的に考えることができる。			地域理解の必要性を重視し、積極的に授業に取り組むことができる。		
評価の算出		上記に示した評価の観点を踏まえ、各単元の評価を行います。単元毎の評価の観点は、下記のとおりです。前期定期考査および稚内観光マイスター検定試験の結果など客観的材料はもとより、探究活動に臨む姿勢とレポートの完成度、郷土研究発表会での発表内容等、多面的に評価を行います。								
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション				○	○	◎	①知識・技能 主に発表資料の創意工夫、期末考査と観光マイスター検定の結果から評価します。 ②思考・判断・表現 主に探究活動中の様子や、発表内容から評価します。地域・文化・歴史への考察が深さや、地域の発展や課題解決への意欲はここで評価されます。 ③関心・意欲・態度 主に授業への積極性や、グループ活動での行動など、普段の様子で評価します。
		2	稚内市の概要				◎	○	◎	
	5	1	宗谷岬周辺				◎	○	◎	
		1	稚内空港周辺				◎	○	◎	
	6	1	稚内公園				◎	○	◎	
		1	ノシャップ岬・稚内西海岸				◎	○	◎	
	7	2	稚内港				◎	○	◎	
		1	稚内のイベント・アクセス				◎	○	◎	
	8	2	味覚				◎	○	◎	
		2	外部講師による講演会					○	◎	
9	2	自然				◎	○	◎		
	1	前期期末考査				◎	◎			
後 期	10	1	産業・文化				◎	○	◎	
		1	稚内観光マイスター検定について事前学習				○	○	◎	
	11	2	郷土研究（テーマ設定）				○	○	◎	
		4	郷土研究（資料収集・聞き取り調査等）				○	○	◎	
	1	4	郷土研究（発表資料作成）				◎	◎	◎	
		4	郷土研究発表会				◎	◎	◎	
	3	2	まとめ・振り返り				◎	◎	◎	
合計	35									
学 習 方 法 ・ そ の 他										
稚内観光マイスター推進委員会が発行する「稚内観光マイスター ー初級テキストー」を用いて授業を進めていきます。また、授業に関する別紙資料も数多く配布されますので、それらを利用して学習することが基本となります。10月には「稚内観光マイスター検定初級」を全員受験しますので、その合格を学習の目標とするのも良いでしょう。 しかし、この授業は単純に学習内容を理解、暗記すれば良いというものではありません。稚内に生まれ育った私たち一人ひとりが稚内への理解と愛情を深め、将来にわたって郷土に自信と誇りを持ち続ける礎を築くことが何よりも大切なのです。そのため、より積極的に授業に臨むことが求められますし、そうしなければこの授業の意義が大きく損なわれることになります。 また、年度末には「郷土研究発表会」が予定されています。この発表会は、各グループごとにテーマを決め、それに沿って独自に調査研究を行いその成果を発表するもので、本授業のメインイベントです。この発表会に向けて、年度当初から興味関心の持てる内容について特に意識して学習しておくとも良いでしょう。 この授業を通じて、稚内への理解と愛情をより深められることを期待しています。										